

日本のセラミックバレーを体験しよう

美濃焼の産地である多治見へようこそ。この谷の陶工たちは、約 1300 年前から継続して陶磁器を生産しており、シンプルな土器から優美な磁器まで様々なスタイルがある。これらの芸術的・文化的遺産は総称して「美濃焼」と呼ばれている。多治見の多様で魅力的な世界を、以下の場所で是非体験してみしてほしい。

美濃焼ミュージアム

8 世紀の素焼きの須恵器から、現代の人間国宝の磁器や茶碗の名品まで、美濃焼の歴史を幅広く紹介している。館内では、美濃焼の窯業技術の発展や装飾技法、代表的な様式を各時代の代表的な作品とともに紹介し、多彩な陶磁器の変遷を日本語と英語で詳しく説明している。

とうしん美濃陶芸美術館

東濃信用金庫は、多治見の文化の中心である美濃焼の魅力を伝えるために、2015 年にこの無料の美術館を設立した。美濃焼の中でも、特に黄瀬戸、志野、瀬戸黒、織部などの茶碗を中心に、地元で生産された陶磁器を多数展示している。また、毎年特定の日には、茶室で美濃焼の茶碗で抹茶を飲むことができ、作品をより身近に感じることができる。

ギャラリーヴォイス

ギャラリーヴォイスは、陶芸家とパトロン（購入者やファンを含む広義の支援者）の対話を大切にする陶磁器ギャラリーである。常設展示のほか、アートとしてのやきものの今を伝える企画展や、シンポジウム、講演会、陶芸教室などを開催している。ギャラリーのスタッフは全員が現役の陶芸家であり、陶芸への情熱を持った人々と直接触れ合うことができる。

モザイクタイルミュージアム

タイルの産地である笠原エリアにあるミュージアム。著名な建築家である藤森照信の設計による建物は、有機的なフォルムと素材で構成された珍しいものである。館内には、銭湯や商店、学校、家庭などから引き取られたモザイクアート作品をはじめ、タイルの生産や芸術に関する 1 万点以上のコレクションがあり、タイルが生活に密着していたことを語っている。また、館内の工房ではタイル工芸を体験することができる。

幸兵衛窯

市之倉の集落の中にある窯元。1804 年、加藤家が江戸城御用達の食器を製造するために設立した窯である。美濃、中国、ペルシャなどの失われた釉薬を研究し、再現することで、革新的な技術を生み出してきた。現在は 8 代目当主が窯を開き、研究のために収集した古美術品や、人間国宝に指定された加藤卓男をはじめとする幸兵衛窯の名工たちの作品など、数多くの陶磁器を展示して

いる。

市之倉さかつき美術館

さかつきとは、小さな茶托型の酒器のことを指す。結婚式やお酒の席など、日本の生活の中で重要なシーンに登場する。市之倉集落は、約 2 世紀前から磁器の酒器を専門に生産しており、一時は日本の酒器の半分以上を市之倉集落の陶芸家が生産していたという。この博物館では、約 1500 点のさかつきを展示しており、その文化的意義や歴史を知ることができる。

多治見市陶磁器意匠研究所（Ishoken）

新進気鋭の陶芸家を指導し、コンサルティングや技術支援を行うことを目的とした研究所。1959 年の設立以来、47 カ国から 900 人以上の卒業生を輩出し、美濃焼の知識と価値を世界に広めている。センターにはギャラリースペースがあり、在校生や卒業生の作品を紹介する展覧会が年に数回開催されている。

こども陶芸館 Kids Land

ピカチュウなどのキャラクターや日本の昔話をモチーフにした約 800 点の子供用食器を常設し、特別展を通して、陶磁器の魅力を伝えています。コレクションには、「みんなうち」の作者である五味太郎氏をはじめとする著名なアーティストやイラストレーターのオリジナルプレートも含まれている。1 階および地下 1 階には、絵付け工房、プレイルーム、絵本ライブラリー、休憩室など、さまざまな活動スペースが設けられている。